

平成30年度公立高等学校  
みやぎ学力状況調査 **概要**

I	調査の概要	.....	P. 1
II	調査結果の概要と分析	.....	P. 2
	1	学力状況に関する調査	
	2	教科に関する調査の結果分析と改善の方向	
	3	学習状況等に関する調査	
	4	「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査	
III	学力向上に向けた今後の取組	.....	P.22

平成30年11月

宮城県教育委員会



# I 調査の概要

## 1. 学力状況に関する調査

(1) 目的 生徒の学力状況を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。

(2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 74校  
2年生 約14,499人

(3) 実施期間 平成30年7月2日（月）から7月9日（月）までの間、各学校で実施

(4) 実施内容

① 実施教科

- ・国語，数学，英語の3教科
- ・高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し，平均正答率を50%と設定
- ・各教科，共通問題に加え学校選択問題を設定  
※学校選択型A問題（A問題）は知識・理解等を問う基礎的・基本的な内容の設問  
※学校選択型B問題（B問題）は思考力・表現力等を問う発展・応用的な内容の設問

② 実施人数

- ・国語 13,794人（A問題選択53校6,752人，B問題選択30校7,042人）
- ・数学 13,791人（A問題選択57校7,633人，B問題選択26校6,158人）
- ・英語 13,783人（A問題選択56校7,362人，B問題選択27校6,421人）  
※学校数は全日制本校69校，定時制11校，分校・分校舎3校の計83校として集計

## 2. 学習状況等に関する調査

(1) 目的 生徒の学習状況等を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。

(2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 計74校  
1年生 14,418人， 2年生 約14,499人

(3) 実施期間 平成30年7月2日（月）から7月9日（月）までの間、各学校で実施

(4) 実施内容

① 調査内容 生徒の学習・生活状況，震災後の心身の健康状況及び「志教育」等に係る質問紙調査

② 実施人数 1年生 14,019人（回収率 97.2%）  
2年生 13,826人（回収率 95.4%）

## Ⅱ 調査結果の概要と分析

### 1 学力状況に関する調査

#### (1) 概況

**国語** 共通問題の正答率は、56.0%（前年度49.6%）

- 言語に関する基礎的・基本的な知識の定着が不十分である。また、まとまりのある文章を読む際、文言を吟味し、内容を的確に読み取る力が不足している。
  - ・言語事項では、日本語の適切な表現、敬語、文法に関する知識の定着はある程度見られるものの、日常生活で触れる機会が少ない語句の読み書き、ことわざ・慣用句についての理解は不十分である。
  - ・現代文では、文章の内容や論理の展開を的確に捉える力、表現に基づいて心情を把握する力に、古典では、基本的な語句や文法を踏まえ、叙述に即して内容を的確に読み取る力に課題が見られる。

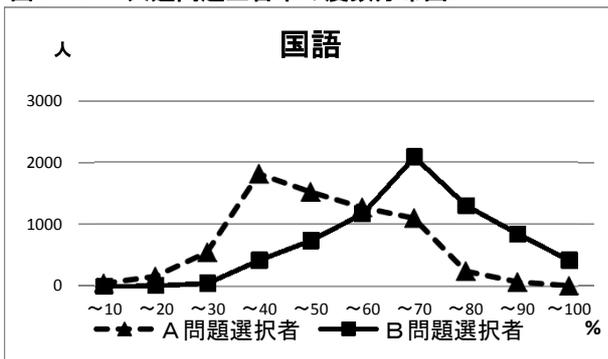
**数学** 共通問題の正答率は、41.7%（前年度48.6%）

- 基礎的・基本的な知識の定着度が二極化傾向にある。また、必要な情報を複数組み合わせることで解答する問題への対応力に課題があり、思考の過程を整理して問題に取り組む力の育成が必要である。
  - ・整式の計算や分母の有理化、二次方程式、二次不等式の解法については、一定の定着が見られる。
  - ・データの分析について基本的用語の意味や定義の理解が不十分である。また、グラフや問題文から必要な条件を読み取ることや、公式や定理を適切に活用して立式する力に課題が見られる。

**英語** 共通問題の正答率は、47.3%（前年度44.1%）

- 基礎的・基本的な問題の正答率は上昇しているものの、その定着度は二極化している。また、まとまった量の英文を読み取り、情報を整理し概要や要点を捉える力に課題が見られる。
  - ・リスニング問題において、基本的な表現を聞き取り、その内容を理解することには定着が見られる。
  - ・資料読み取りや長文問題において、時間内で情報を整理したり概要や要点を捉えたりする力に課題が見られる。

図1-1 共通問題正答率の度数分布図



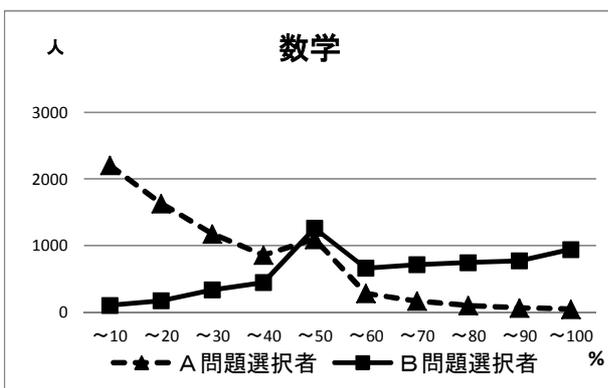
#### 国語

##### <正答率>

A問題選択者	共通問題：	46.3%
	全問題：	44.7%
B問題選択者	共通問題：	65.3%
	全問題：	60.7%

##### <概況>

・A問題選択者とB問題選択者の共通問題での正答率の比較においては、19.0%の差が見られた。正答率は全体的に上昇しており、引き続き基礎的・基本的な知識の定着を図り、文章の内容を的確に読み取る力をより一層伸ばしていきたい。



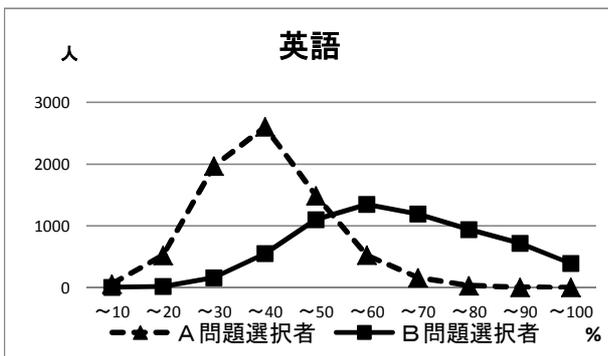
#### 数学

##### <正答率>

A問題選択者	共通問題：	25.1%
	全問題：	27.5%
B問題選択者	共通問題：	61.8%
	全問題：	45.1%

##### <概況>

・A問題選択者とB問題選択者の共通問題での正答率の比較においては、36.7%の差が見られ、3教科の中で最も大きな差である。基礎的・基本的な知識の定着度が二極化していることが明確に表れている。特にA問題選択者では10%未満の度数が高いことから、引き続き基本事項の定着を図る必要がある。



#### 英語

##### <正答率>

A問題選択者	共通問題：	35.5%
	全問題：	34.3%
B問題選択者	共通問題：	60.9%
	全問題：	58.4%

##### <概況>

・A問題選択者とB問題選択者の共通問題での正答率の比較においては、25.4%の差が見られる。A問題選択者の正答率は昨年度より上昇しているものの、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、授業における言語活動の機会を増やすことが、引き続き求められる。

(2) 概況(A, B問題選択者別一観点別)

**国語**

基本問題（知識・理解）：A問題選択者の正答率は、44.5%（前年度47.7%）  
B問題選択者の正答率は、61.1%（前年度60.8%）

発展・応用問題（思考力・表現力）：A問題選択者の正答率は、42.1%（前年度32.4%）  
B問題選択者の正答率は、57.6%（前年度45.8%）

○ A・B両選択者とも正答率は昨年度より上昇したが、A問題選択者の基本問題の正答率は下降した。

**数学**

基本問題（知識・理解）：A問題選択者の正答率は、40.3%（前年度41.0%）  
B問題選択者の正答率は、74.8%（前年度73.5%）

発展・応用問題（思考力・表現力）：A問題選択者の正答率は、23.0%（前年度20.3%）  
B問題選択者の正答率は、34.6%（前年度30.0%）

○ A・B両選択者とも昨年度と比較し、基本問題の正答率は横ばいであり、発展・応用問題の正答率は上昇した。

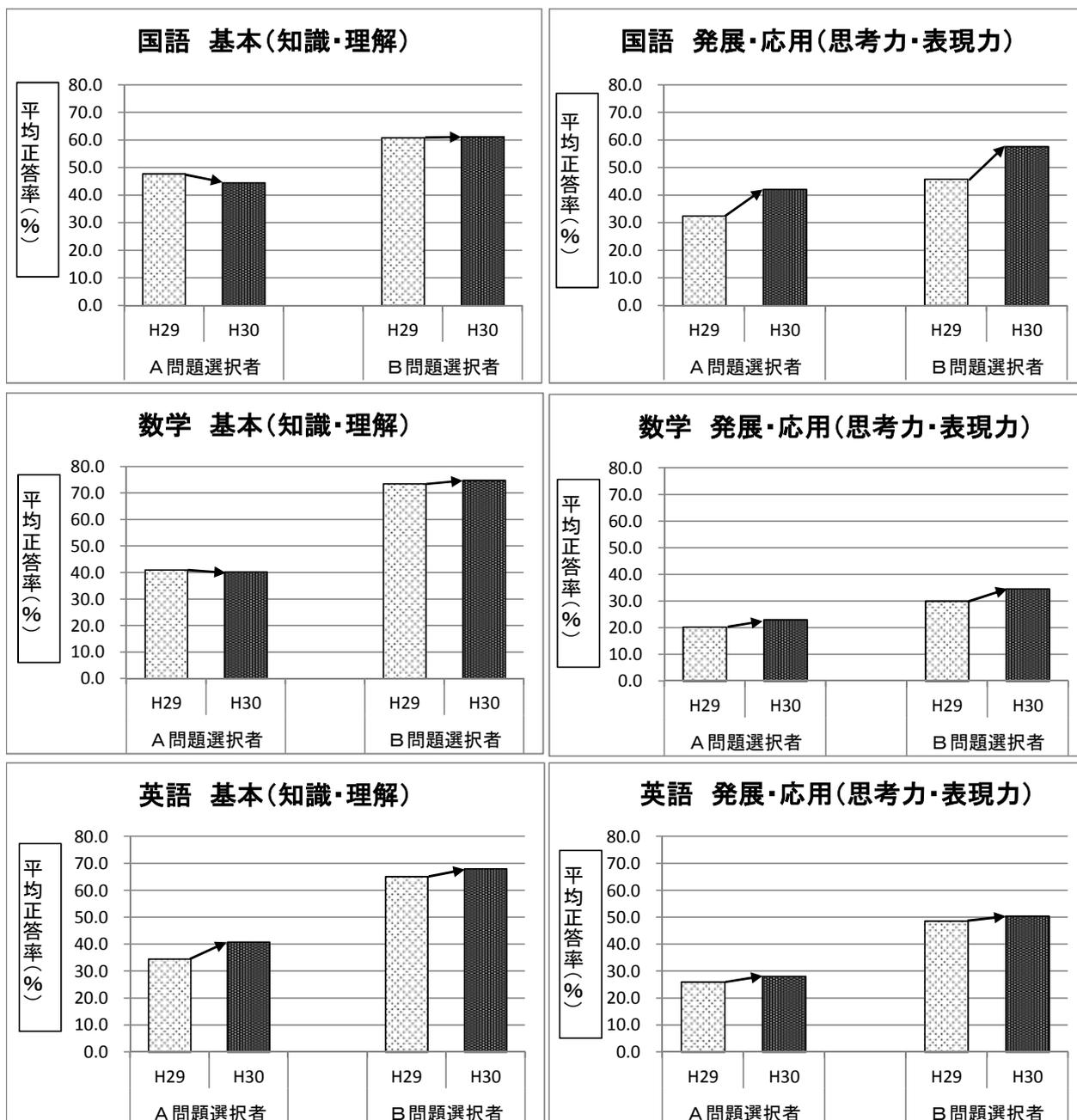
**英語**

基本問題（知識・理解）：A問題選択者の正答率は、40.8%（前年度34.5%）  
B問題選択者の正答率は、68.0%（前年度65.1%）

発展・応用問題（思考力・表現力）：A問題選択者の正答率は、28.1%（前年度26.0%）  
B問題選択者の正答率は、50.4%（前年度48.6%）

○ A・B両選択者とも正答率は昨年度より上昇しており、A問題選択者の基本問題の正答率の上昇が顕著である。

図1-2 A・B問題選択者別一観点別 正答率



## 2 教科に関する調査の結果分析と改善の方向

### 国語

#### ◎分析と課題 (◇…相当数の生徒ができています。 ◆…課題がある。)

##### <言語事項>

◇日本語の適切な表現、敬語、口語文法については、おおむね高い正答率である。

◆漢字については、日常生活で触れる機会が少ない語句の正答率が低い。

◆ことわざ・慣用句についての理解が不十分である。

⇒ 課題1：言語に関する基礎的・基本的な知識の定着が不十分である。

##### <現代文>

◇文学的な文章では、叙述を基に物語の展開をたどることがある程度できている。

◆論理的な文章では、文章の内容や論理の展開を的確に捉える力が不足している。

◆文学的な文章では、文脈や表現に着目して登場人物の心情を把握する力が十分ではない。

⇒ 課題2：文言を吟味しながら内容を的確に読み取る力、文章全体の構成や展開を的確に捉える力が不足している。

##### <古典>

◇漢文の返り点の用法が身に付いている。

◆古文・漢文ともに語句および文法・句法の理解が不十分なため、人物の関係や場面の細部を的確に読み取る力が不足している。

⇒ 課題3：基礎的・基本的な知識を活用して、内容を的確に読み取る力が不足している。



#### ◎改善の方向

##### <言語事項>

①基礎的・基本的な言語事項の定着を図るために、様々な言語表現に触れさせる機会を増やす必要がある。また、言語に関する知識を用いて思考したり表現したりする活動を充実させることで、適切に言語を運用する力の向上を図る必要がある。

- ・漢字については、様々な文章に触れ、語句の意味の正確な知識と運用の方法を習得させる。
- ・ことわざや慣用句、敬語については、実際に運用する場面を提示し、意味や用例を理解させることで、具体的なイメージを伴った知識として定着させる。また、本来の意味ではない用例に触れ、それと比較することで、正しい使い方を意識させる。
- ・学校図書館とも連携しながら読書指導を進め、様々な表現に触れさせる。

##### <現代文>

②論理的な文章では、言葉の意味を正しく把握し、論理の展開を確かめながら内容を的確に読み取る力を育成する必要がある。また、文学的な文章では、表現に着目して登場人物の心情を的確に把握する力を育成する必要がある。

- ・論理的な文章では、根拠となる表現や文言を吟味し、その理解に基づきながら筆者の主張に至る筋道をたどることで、文章の内容を的確に読み取る力を身に付けさせる。
- ・文学的な文章では、情景や心情を表す語句が文章の流れの中でどのように用いられているか、また、用いられたことによってどのような効果があるかを考えさせることで、登場人物の心情や内容を的確に捉える力を身に付けさせる。

##### <古典>

③古典を主体的に学ぼうとする意欲を高め、基礎的・基本的な知識を定着させるとともに、身に付けた知識を活用して、文章の内容を的確に読み取る力を育成する必要がある。文章全体の構成や、叙述に即して細部を把握させるような授業を展開する必要がある。

- ・生徒が理解しやすくなるように工夫した教材を提示することで、古典を理解するための基本的な語句、文法事項、句法などの基礎的な知識を身に付けさせる。
- ・語句や表現に注意しながら文章を読む姿勢を養い、登場人物の関係や心情を的確に把握する力を身に付けさせる。
- ・現代語訳を適宜活用して文章全体の構成や要旨を捉えたり、古典世界の習俗等の説明を加えたりするなどして、古典作品の内容そのものの面白さに触れられる工夫をする。
- ・生徒たちが主体的に古典を読み味わうことができるよう、個人での活動やグループでの活動を計画的に取り入れ、生徒が自ら進んで古典に親しむ態度を育成する。

## 数学

### ◎分析と課題

(◇・・・相当数の生徒ができている。 ◆・・・課題がある。)

◇整式の計算，因数分解，二次方程式，二次不等式の問題については正答率が比較的高く，基本的な知識・理解や数学的な技能についてはある程度の定着が見られる。

◆平方完成，図形と計量，データの分析の問題についての正答率は他の分野と比較して低い傾向にあり，これらの問題についての基本的な知識・理解が不足している。

⇒ 課題1：基本的な用語の意味や知識・技能が定着していない分野がある。また，場面や条件に合わせて公式や定理を適切に選択し利用する力が不十分である。

◆必要とする複数の条件を見つけ，それらを組み合わせて解答する問題の正答率が低い。

⇒ 課題2：問題を複数の視点から考察する力や，適切に条件を整理し考える力が不十分である。

◇公式や定理をそのまま適用するような基礎的・基本的な知識・技能の習得をみる問題の正答率は高い。

◆問題から与えられた条件を正しく読み取り，解決の筋道を立て，複数の情報を基に立式することができていない。

⇒ 課題3：与えられた情報を整理し，課題解決に向けた道筋を立てて立式するなど，数学的に表現・処理する力が不十分である。

◆得られた解について，条件に適しているかの検証ができていない。

◆グラフや数直線を用いて適切に考察することや，図や表からの情報を正確に読み取り，数式で表現したり，活用・処理したりすることができていない。

⇒ 課題4：条件を基にしてグラフや数直線を活用する力や，グラフや図，表から必要な情報を正しく読み取り，問題を解決する力が不十分である。



### ◎改善の方向

①基本的な知識・技能について定着を図り，与えられた条件や場면을整理し，立式に結びつける中で，生徒自身がどの公式や定理を使うかを考えることができるような指導の工夫をする。

- ・基本的な問題については，結果の正誤だけでなく生徒同士の学び合いの中で，他者の考えや思考過程を振り返るような指導を行い，解を導き出す力を育成する。
- ・公式や定理を当てはめるだけの思考に陥らないよう，授業中の発問や対話を通して条件を整理し，適切な公式や定理を生徒に選択させるなどの工夫をする。
- ・データの分析の分野については，身近な話題を取り上げながら，統計的探究プロセスを経験させるなど，統計を使うことよきを実感できるよう指導を工夫する。

②授業形態の工夫や課題学習の充実を図り，数学的に考えることの良さを実感させるとともに，様々な視点で問題を考察させ，必要な情報を組み合わせて問題を解決する力を育成する。

- ・様々な視点からの解法を引き出し，それぞれの良さを議論させるなど1つの課題に対して多様な見方を共有し，問題を解決しようとする態度を育成する。
- ・グループ学習やペア学習などの授業形態を取り入れ，他者の考えに触れたり自分の考えを表現したりする活動を通して多面的に考察する力を育てる。

③課題を明確に示し，生徒自身が筋道を立てて主体的に取り組めるような授業展開や，根拠や理由を説明させる場面を設けることで，数学的に表現・処理する力を育成する。

- ・授業において，その時間に何を学び，それによって何ができるようになるのかを教員が明示するとともに，課題解決のために必要な事柄やアイデアを考えさせ，ノートや黒板の数式を利用しながら自分の考えを説明させたり，数学的な表現を共有させたりする機会を設ける。

④適切な場面でグラフや数直線を有効活用しながら問題を解決するよう意識させる。また図や表から必要な情報を読み取り，数式で表現させるなど，表現・活用する力を育成する。

- ・グラフや数直線，図などを適切に利用させることで，それらの有用性を認識させ，数式での表現と対応させるなど様々な方向から事象にアプローチする機会を設け，多面的に事象を捉え理解できるよう指導を工夫する。
- ・ICT機器を効果的に活用するなど，生徒が事象の変化について直観的に理解し，考察を深めていくことができるよう指導を工夫する。

## 英語

### ◎分析と課題

(◇…相当数の生徒ができている ◆…課題がある)

- ◇基本的な表現を聞き取り、その内容を理解する力をみる問題について、正答率が高い。
- ◇会話の流れを把握し、相手が求めている事柄を理解して応答する力について定着が見られる。
- ◆まとまりのある英語を聞く中で、聞き取った情報を整理することができていない。

⇒ 課題 1：まとまりのある英語について、聞き取った情報を整理する力が不足している。

- ◇中学校までの既習事項や、高等学校で学習する基礎的な文法に関して定着が見られる。
- ◆高等学校で学習する語彙・熟語・文法においては、特に仮定法、使役動詞の用法、副詞節と名詞節の違いなど、正しく理解できていない分野がある。
- ◆語彙や語法に関する正しい知識が不足しているため、正しい語順の英語を作ることができていない。

⇒ 課題 2：高校段階で学習する文法事項や語彙などに関する知識が身に付いていない。

- ◇案内文から時間や金額などの必要な情報を探し出すことはできている。
- ◆資料にある複数の情報を組み合わせて、正しい情報を読み取ることができていない。
- ◆語彙や案内特有の表現に対する知識が不十分なため、詳細な情報を読み取ったり、読み取った情報を整理することができていない。

⇒ 課題 3：目的に応じて必要な情報を探し出し、情報を分析、整理する力が不足している。

- ◆限られた時間の中でまとまった量の英文を効率よく読むことができていない。
- ◆各段落の概要を理解して英文全体の流れを捉えたり、読み取った内容を整理したりすることができていない。

⇒ 課題 4：英文全体の流れを理解しながら概要や要点を捉える力が不足している。

### ◎改善の方向

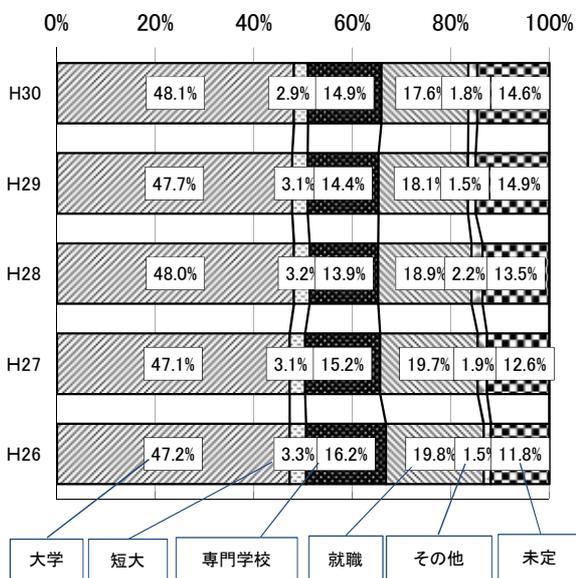


- ①教師や他の生徒の発話、あるいは様々な音声教材を聞いて、複数の情報や考えなどを的確に理解し整理できるようにする。また、教師と生徒、生徒と生徒などの英語による言語活動の機会を多く持つ。
  - ・まとまりのある内容の英文を聞く活動において、聞き取るべきポイントを段階的に明示したり、話し手の意図を把握するために情報を整理しながら聞くように指示をしたりするなどの指導の工夫を図ることで、情報の的確な聞き取りができるようにする。
  - ・必要に応じて、教師がわかりやすい表現や、別の表現に言い換えるなどの工夫をする。
- ②授業中の様々な場面で英語を使用する機会を作り、言語活動と関連付けながら運用を通して文法事項の定着を図る。
  - ・新出の文法事項に関しては、多様な場面の設定における言語活動の機会を作り、実際に英語を繰り返し使用することで定着を図る。
  - ・話したり書いたりする表現活動において、語順を意識させて発信することで、英語特有の文構造の定着を図る。
- ③身近な生活の場面で使用されている多様な英語素材を用いて、必要な情報を的確に検索したり、読み取った内容を適切に伝えたりする力を育む。
  - ・教科書の題材を補うよう、新聞、パンフレット、ウェブサイトや広告など、身近な素材を用いて、多様な形式や表現に触れさせ、情報の的確な読み取りに慣れさせる。
- ④まとまった量の英文を読んだり、様々なジャンルの英文を読む活動を通して、新たな知識を身に付けながら多様な価値観に触れることで英文を読む楽しさに気付かせ、自ら意欲的に読む姿勢を育む。
  - ・概要や要点を捉えるような発問をしたり、段落ごとにポイントを整理するような活動をワークシートの中に入れていたりするなど指導の工夫をすることで、内容についての理解を深めさせる。
  - ・ディスコースマーカーの働きや指示語を意識させることで、文や段落のつながりに留意し、英文の概要や要点を把握させる。
  - ・単元の最初に英文全体を通読したうえで、教科書だけでなく単元に関連のある英文を読む機会を増やすなど、まとまった量の英文を読むことに慣れさせる。
  - ・読んだ内容を活用して、大まかな内容を口頭で述べたり、感想や意見を発表したりする活動を通して、複数の技能にわたる力を育成する。

### 3 学習状況に関する調査

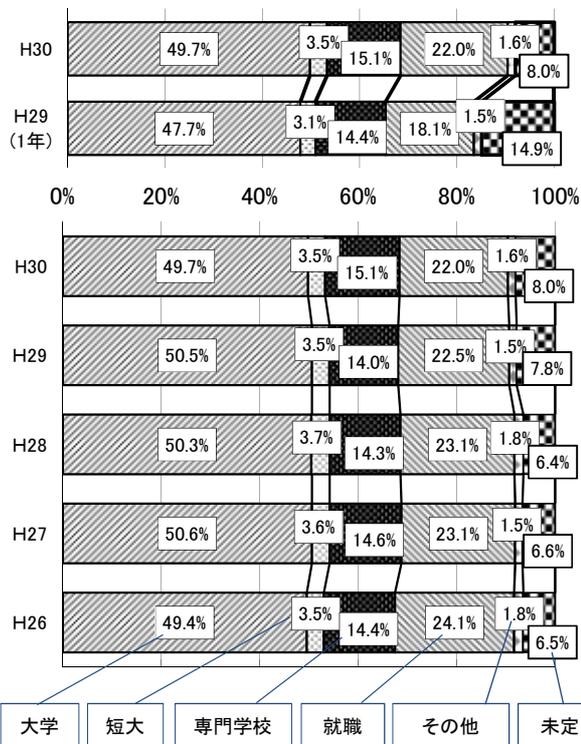
#### (1) 高校卒業後の進路希望【Q1】

図1 進路希望（1年生）



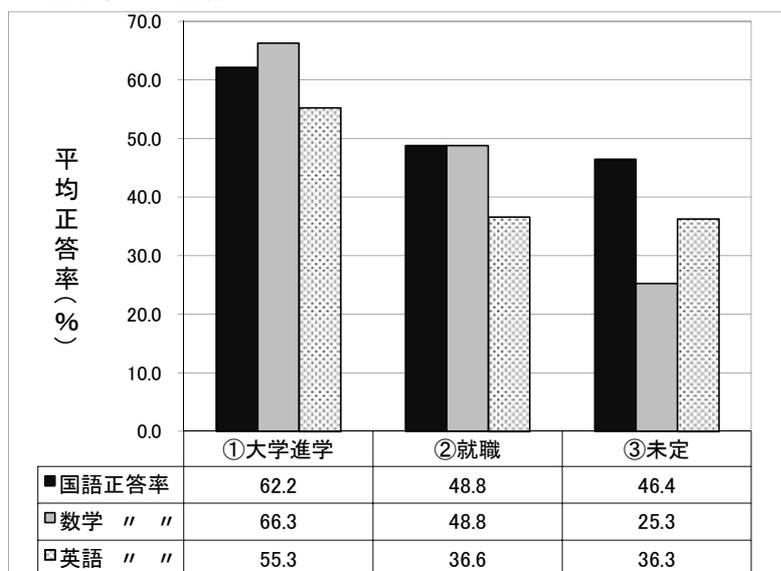
- 4年制大学と短大への進学希望者の合計は、5年連続で50%を超えた。
- 進路希望未定者は、ほぼ変化が見られない。

図2 進路希望（2年生）



- 4年制大学への進学希望者は、50%を下回り、専門学校への進学希望者が増加した。
- 進路希望未定者は、1年時から6.9%減少し、1年から2年の間に進路意識が高まったことがうかがえる。

図3 進路希望別正答率

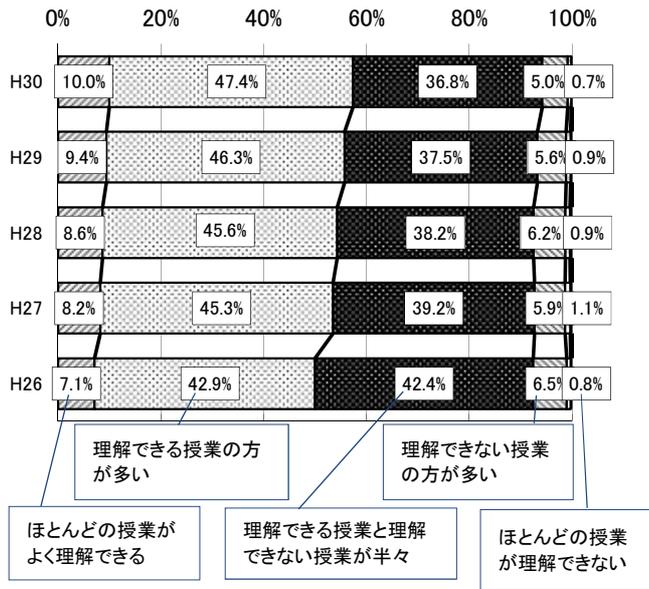


- ① 大学進学  
国公立の4年制大学への進学を希望している生徒
- ② 就職  
民間及び公務員への就職を希望している生徒
- ③ 未定

- 就職希望者及び進路希望未決定者と4年制大学進学希望者とを比較すると、国語では約14%、英語では約19%の差がある。数学では41%と差が大きくなっている。就職希望者の数学の正答率は昨年度に比べ上昇したが、進路希望未決定者の正答率は下降している。進路希望が明確になっているか否かによって学習の定着度に大きな開きが出ることが分かる。

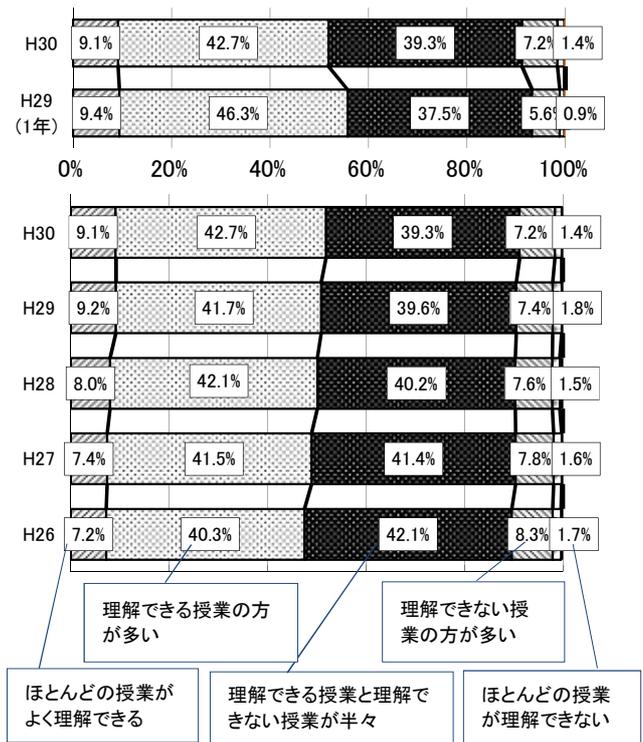
(2) 授業理解度【Q4】，家庭学習の仕方【Q13】

図4 授業理解度（1年生）



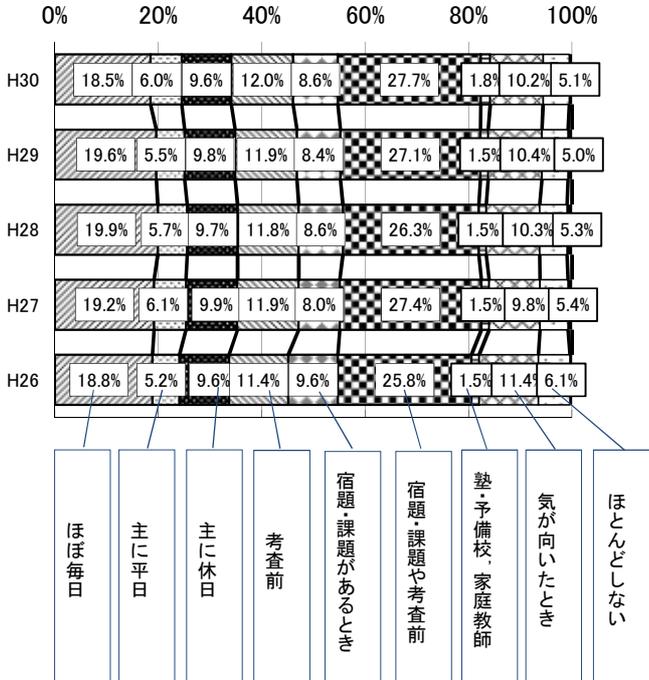
○ 授業が概ね理解できている生徒の割合は昨年度に引き続きやや増加。  
○ 理解できていない生徒の割合はやや減少。

図5 授業理解度（2年生）



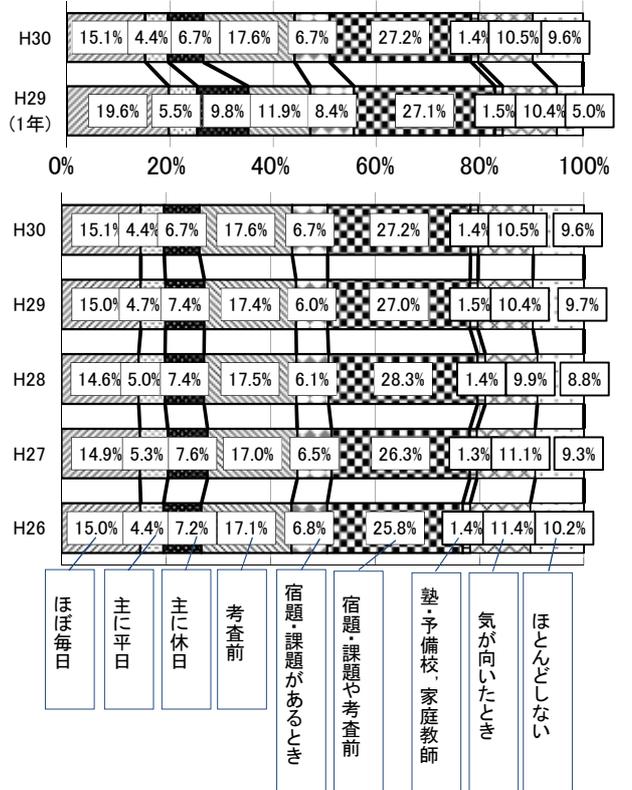
○ 授業が概ね理解できている生徒の割合は昨年度に引き続き50%を超え，やや増加。  
○ 授業理解度は1年時との比較においては減少。

図6 家庭学習の仕方（1年生）



○ 「宿題・課題や考査前」の割合は増加，「ほぼ毎日」の割合は減少，「塾・予備校，家庭教師」の割合はやや増加。

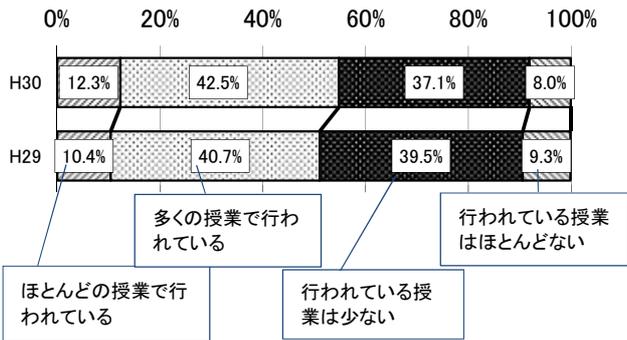
図7 家庭学習の仕方（2年生）



○ 1年では2割弱の生徒が「ほぼ毎日」と答えたが，2年になると4.5%減少し，考査前に限って学習する生徒が5.7%増加，「ほとんどしない」の割合は倍増する。このことは，ここ数年毎年見られる傾向である。

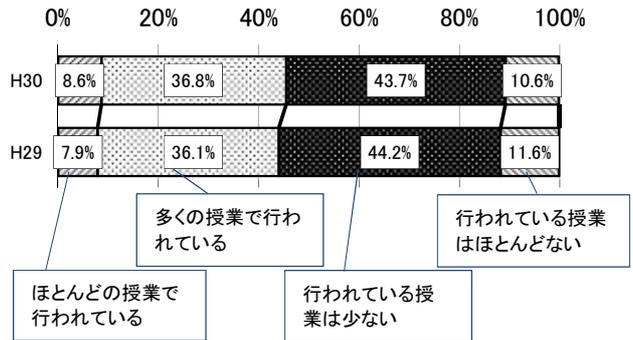
### (3) 授業における学習目標の提示や振り返り【Q6】

図8 授業での学習目標の提示や振り返り（1年生）



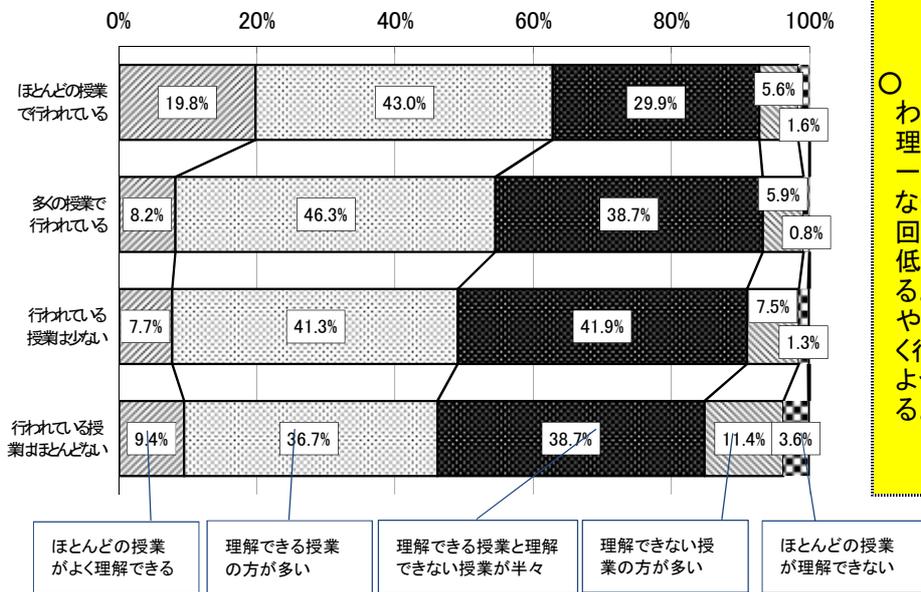
○ 「ほとんどの授業」もしくは「多くの授業」で行われている割合は昨年度より合計3.7%増加し約55%となっている。生徒自身が主体的に授業に臨めるよう、実施の徹底を図る必要がある。

図9 授業での学習目標の提示や振り返り（2年生）



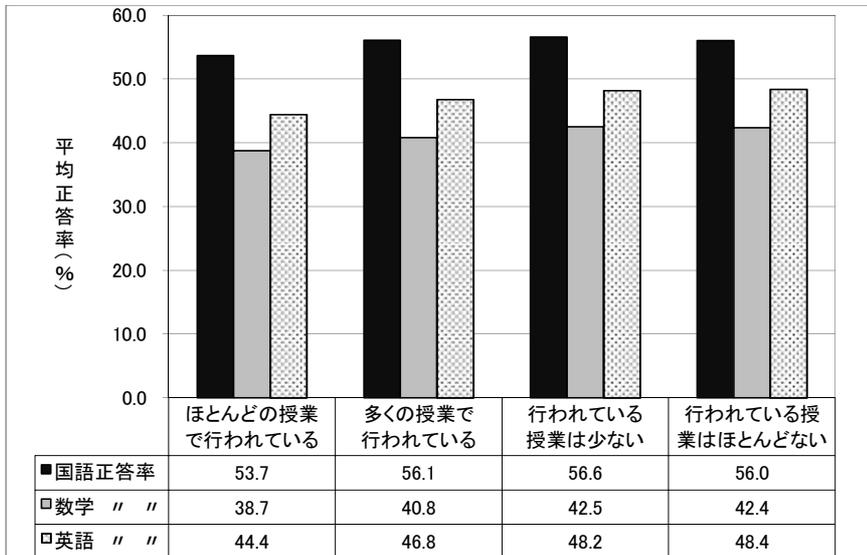
○ 「ほとんどの授業」もしくは「多くの授業」で行われている割合は昨年度よりは増えたものの、合計で5割に届かない状況である。学年に関わらず、生徒自身が主体的に授業に臨めるよう、実施の徹底を図る必要がある。

図10 授業での学習目標の提示や振り返りと授業理解（2年生）



○ 学習目標の提示や振り返りが行われている授業ほど、生徒の授業理解度が高くなる傾向が見られる。一方、「理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある」と回答した生徒の割合が、約30%と低く、昨年度と同じ傾向となっている。授業における生徒の状況観察や提出課題の内容分析等を注意深く行い、生徒の授業理解度が深まるよう、授業改善に努める必要がある。

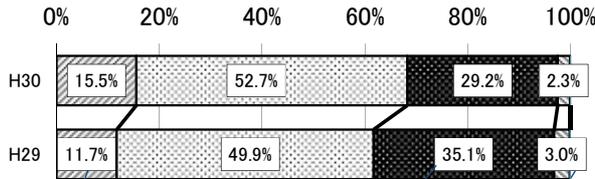
図11 授業での学習目標の提示や振り返りと正答率



○ 学習目標の提示や振り返りと正答率には、昨年度と同様に明確な相関が見られるとは言えない。学習目標の提示や振り返りは、生徒の学習に対する主体性を高め、生徒の授業理解に効果があると言える。生徒の授業理解が深い学びにつながるよう学習目標の提示や振り返りの工夫を継続していく必要がある。

(4) 授業中に自分の考えを发表或し、ペアや小グループで話し合う時間【Q7】

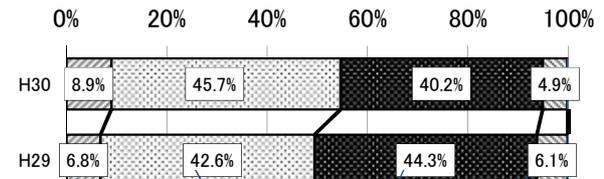
図12 授業中の意見発表や話し合い(1年生)



ほとんどの授業でそのような時間がある  
 多くの授業でそのような時間がある  
 そのような時間がある授業は少ない  
 そのような時間がある授業はほとんどない

○ 「ほとんどの授業」及び「多くの授業」で設定している割合は前年度より合計6.6%増加し、70%に迫っている。

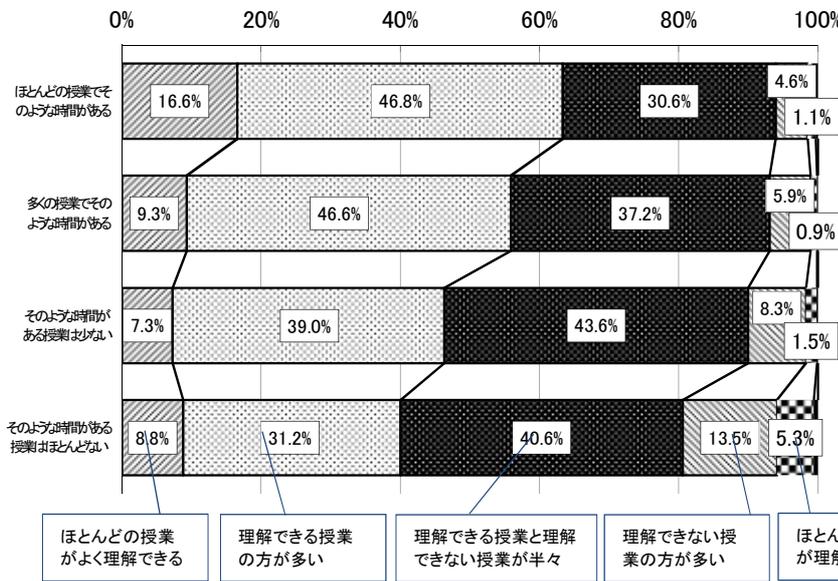
図13 授業中の意見発表や話し合い(2年生)



ほとんどの授業でそのような時間がある  
 多くの授業でそのような時間がある  
 そのような時間がある授業は少ない  
 そのような時間がある授業はほとんどない

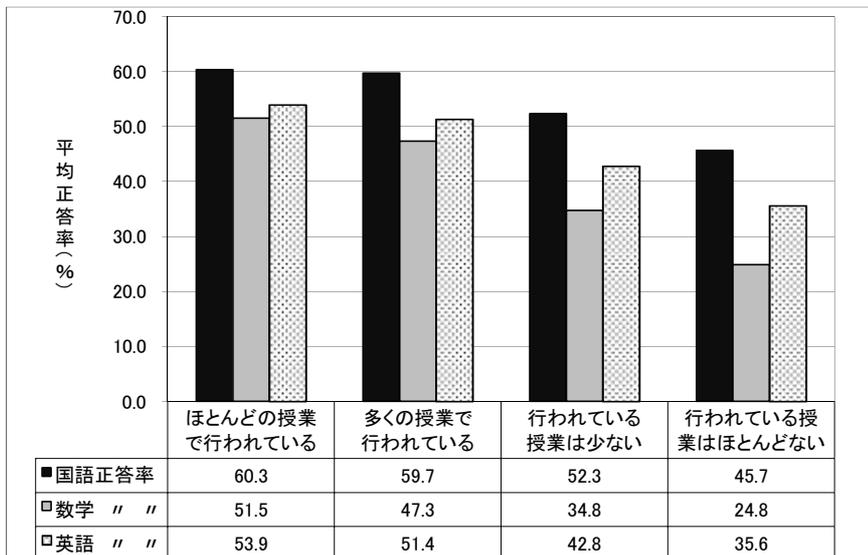
○ 「ほとんどの授業」及び「多くの授業」で設定している割合は昨年度より合計5.2%増加して、50%を超えている。

図14 授業中の意見発表や話し合いと授業理解(2年生)



○ 「ほとんどの授業でそのような時間がある」と回答した生徒のうち、「ほとんどの授業がよく理解できる」「理解できる授業の方が多く」と回答した割合は、昨年度より増加している。授業中の意見発表や話し合う時間が確保されている授業では生徒の授業理解度が高い割合を示している。  
 ○ 各授業のねらいに即し、かつ、生徒の学習の定着度等を見ながら効果的に言語活動を取り入れ、生徒の授業理解が深まるよう、不断の授業改善が今後も必要である。

図15 授業中の意見発表や話し合いと正答率



○ 授業で、意見発表や話し合う活動が多く行われている場合、正答率が高い傾向が見られる。  
 また、「ほとんどの授業で行われている」と回答したグループと「行われている授業はほとんどない」と回答したグループの正答率には大きな差が見られる。  
 ○ 学習に対する主体的な取り組み姿勢や協働的な学びが、学力の向上につながっていると考察できる。

(5) 平日の学習時間【Q11】

図16 平日の家庭学習時間（1年生）

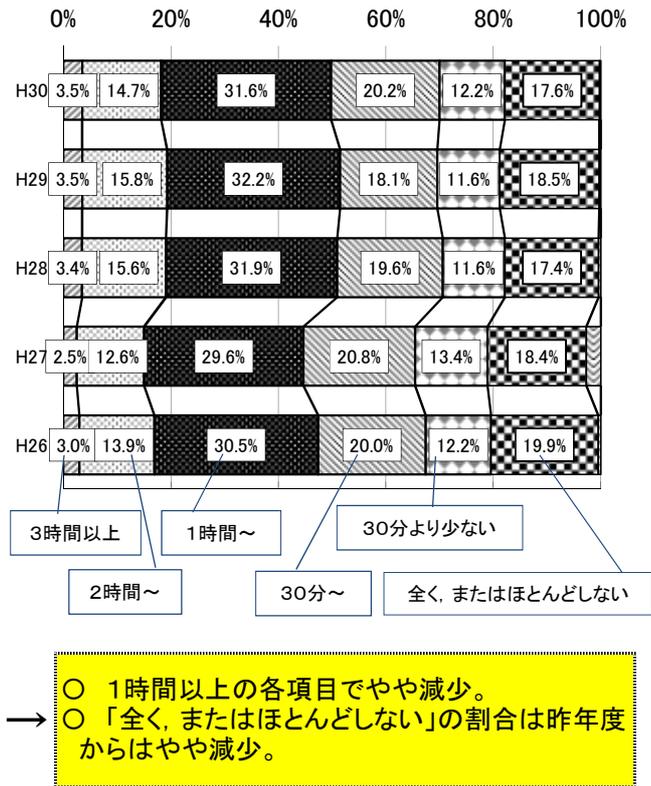


図17 平日の家庭学習時間（2年生）

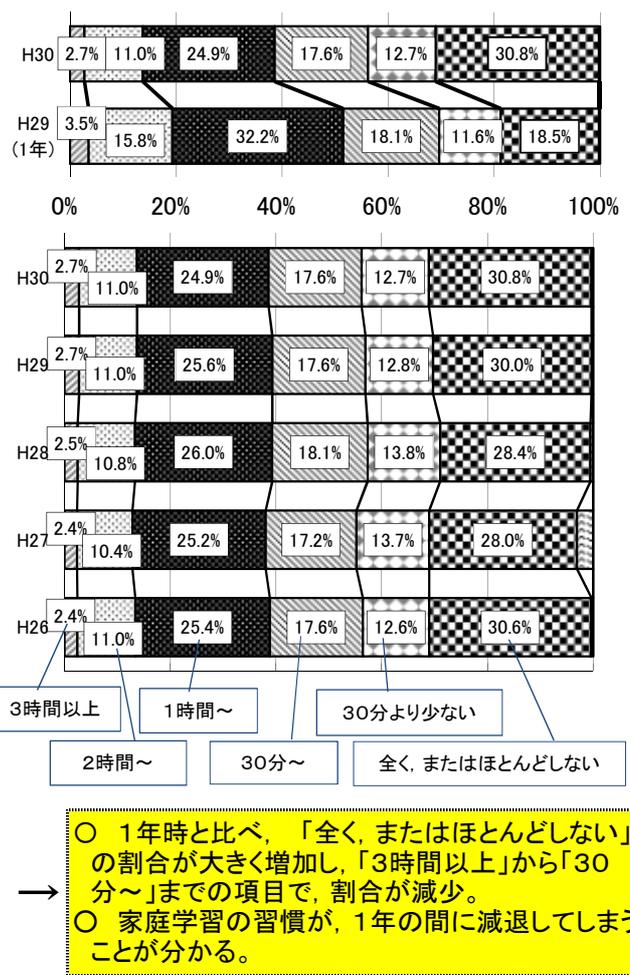
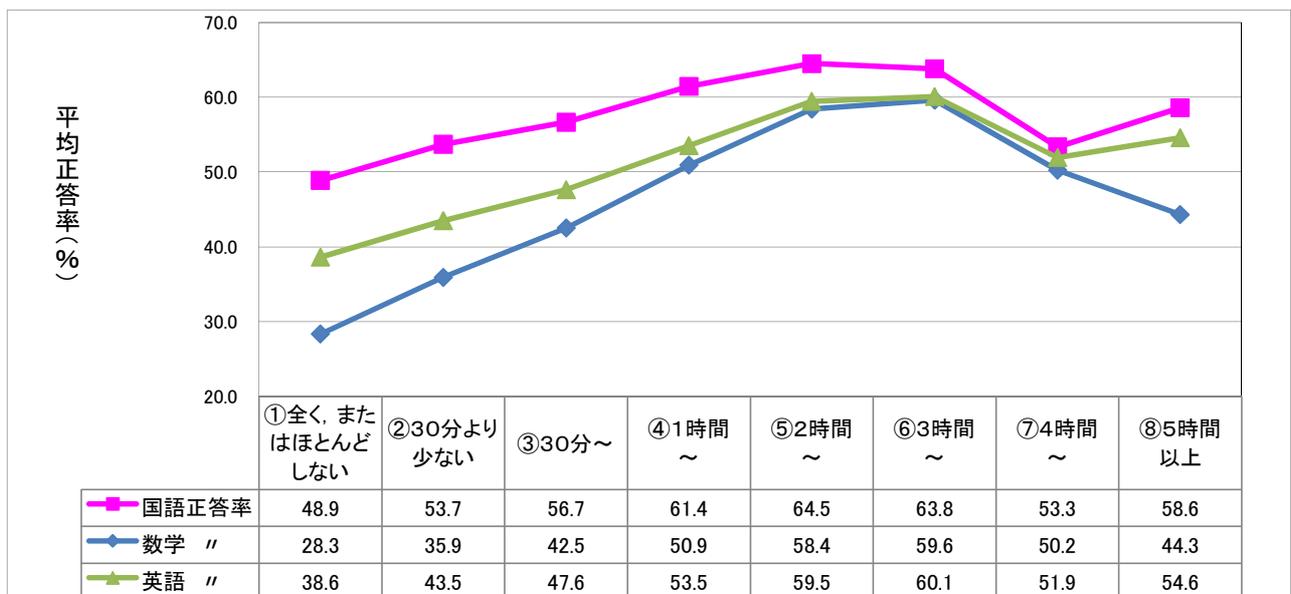


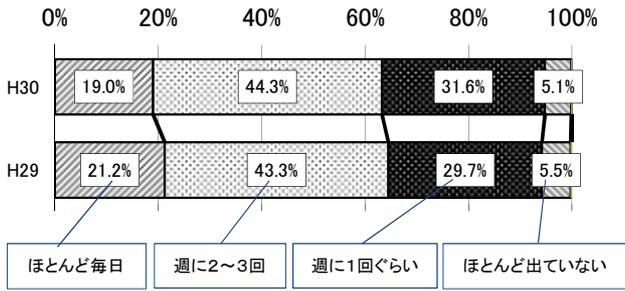
図18 家庭学習時間と正答率

→【Q11】 平日に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか



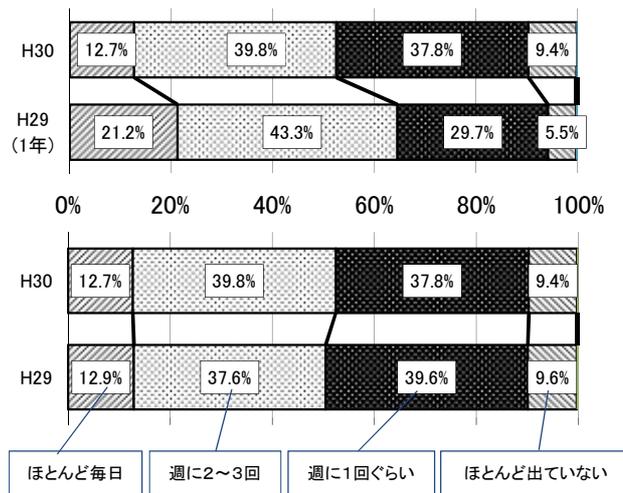
(6) 宿題・課題の頻度(【Q8】)

図19 宿題・課題が課される頻度(1年生)



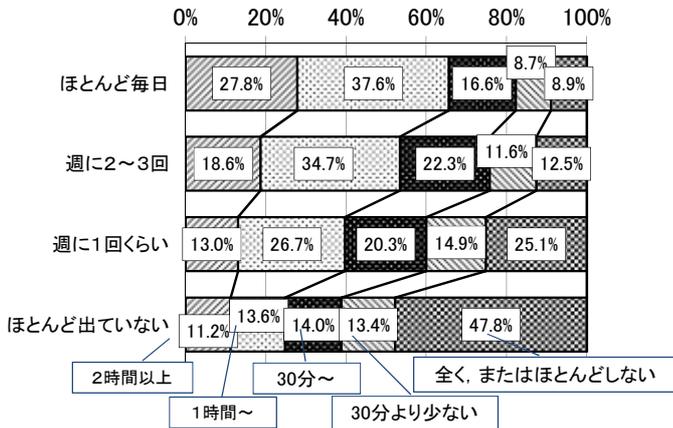
→ ○ 「ほとんど毎日」がやや減少し、「週に2~3回」がやや増加した。

図20 宿題・課題が課される頻度(2年生)



→ ○ 宿題や課題が課される頻度は、1年時より大きく減少し、特に「ほとんど毎日」が減少している。

図21 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間(1年生)



→ ○ 宿題・課題が課される頻度と家庭学習時間には相関が見られる。宿題・課題がほとんど課されていない場合、1年生、2年生ともに約半数の生徒が家庭学習を行っていない。生徒の学習習慣の確立のためには、学校の教育目標や特色等を踏まえながら、宿題・課題を適宜課す必要があると考えられる。

図22 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間(2年生)

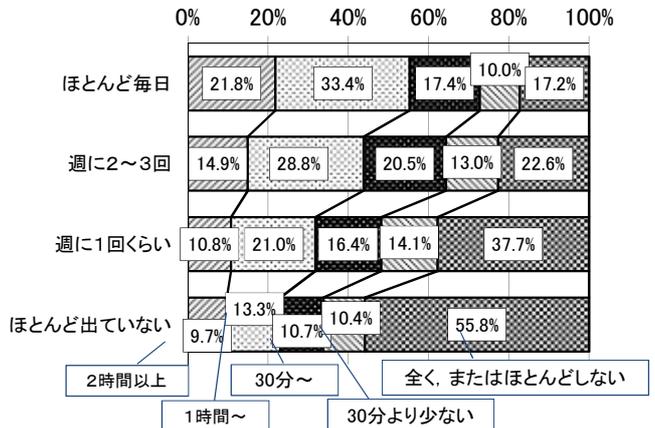
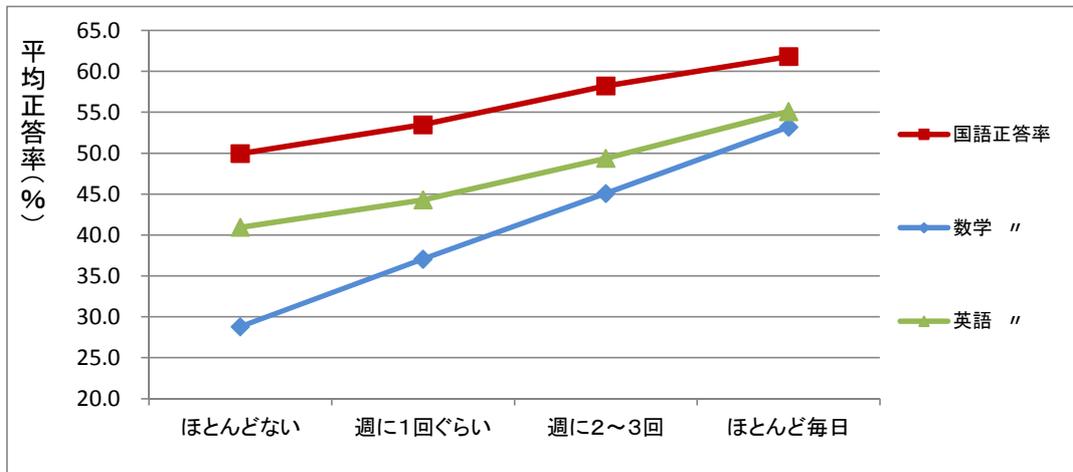


図23 宿題・課題の頻度と正答率

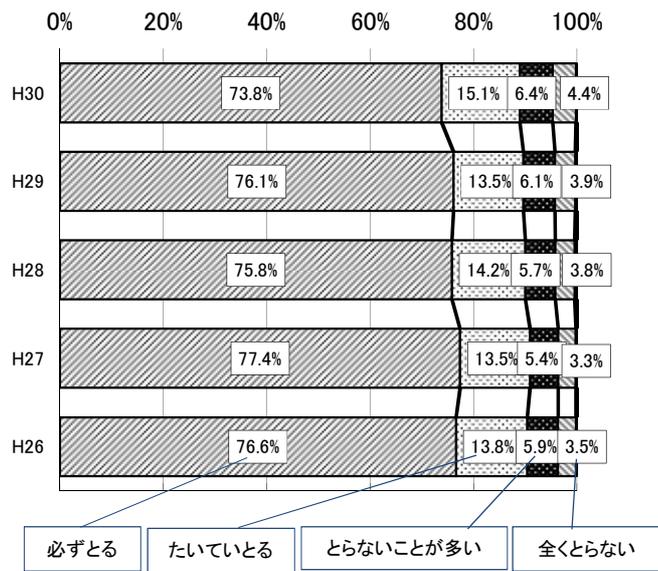
→ 【Q8】 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか



→ ○ 宿題・課題をほとんど毎日課している場合とほとんど課していない場合の各教科の正答率を比較すると、国語は11.8%、数学は24.4%、英語は14.2%の差が見られる。授業での学びを生徒一人一人にしっかりと定着させるためには、授業内容や生徒の理解度を踏まえながら、効果的に宿題・課題を課す必要がある。

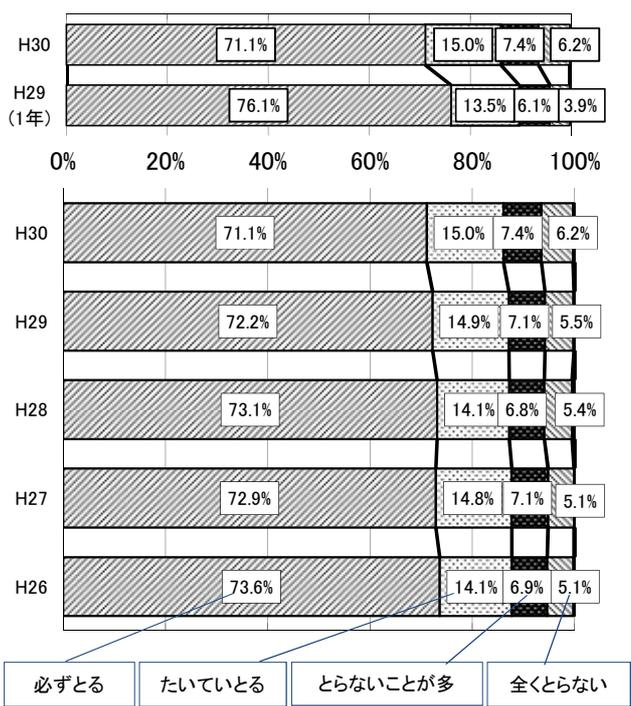
(7) 朝食摂取の習慣(【Q15】)

図24 朝食摂取習慣(1年生)



→ ○ 朝食摂取の習慣がほぼ身につけている割合は約9割であった。  
○ 「必ずとる」の割合がやや減少した。

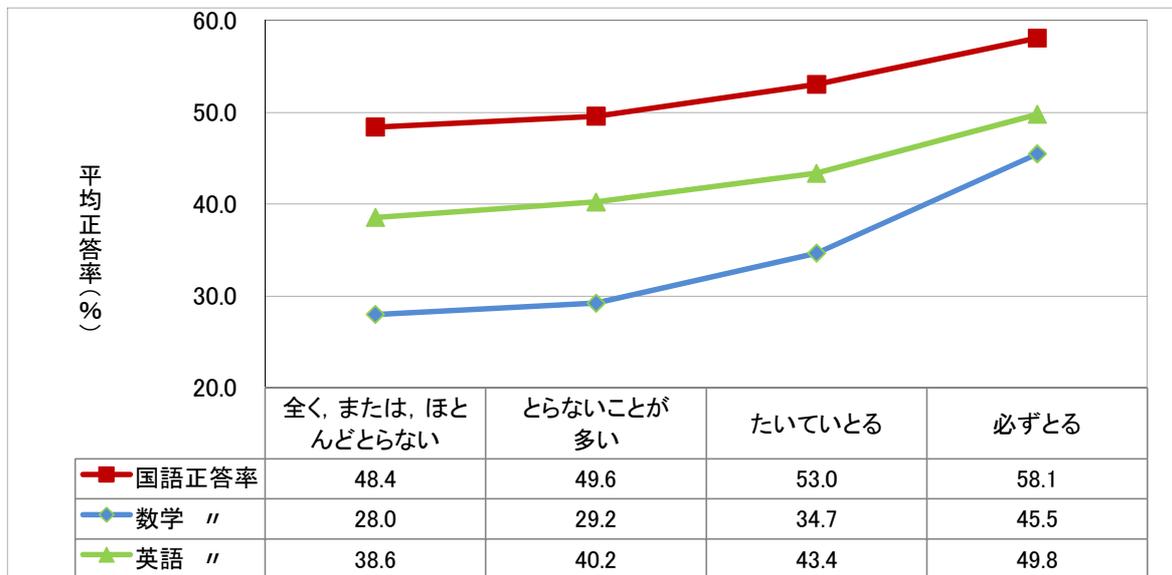
図25 朝食摂取習慣(2年生)



→ ○ 「必ずとる」の割合が昨年度よりも1.1%減少しており、1年時と比較すると5.0%の減少となっている。

図26 朝食摂取の習慣と正答率

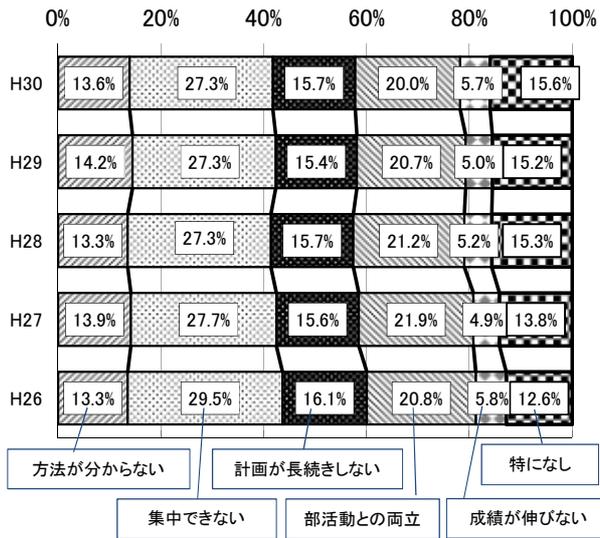
【Q15】 学校に行く前に朝食をとりますか



→ ○ 朝食をきちんととっている生徒ほど、各教科の正答率は高くなる傾向が見られることから、きちんとした食生活の習慣化が大切である。

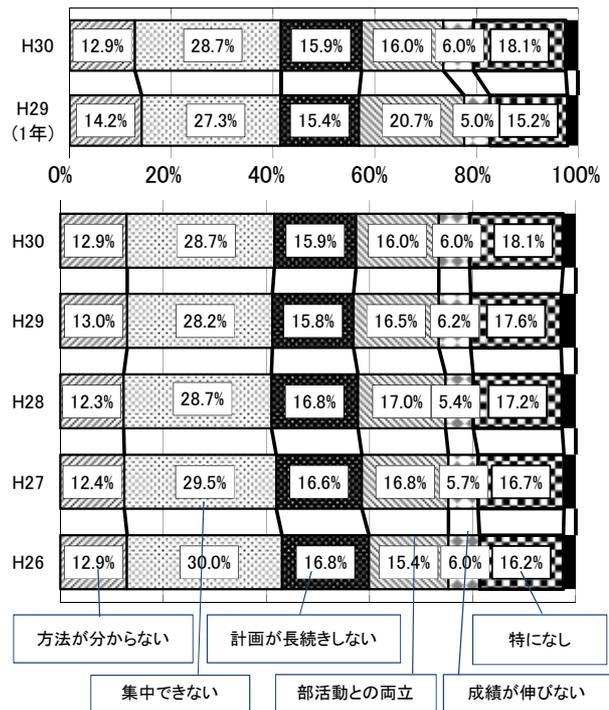
(8) 家庭学習をする上での悩みと平日の生活(【Q14】、【Q17】)

図27 家庭学習をする上での悩み(1年生)



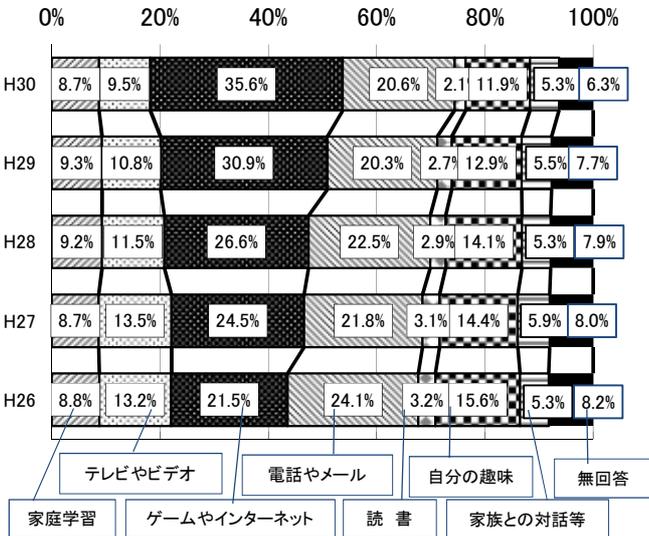
- 「集中できない」が最も多い。
- 「計画が長続きしない」の割合がやや増加。
- 「方法が分からない」「部活動との両立」の割合がやや減少。

図28 家庭学習をする上での悩み(2年生)



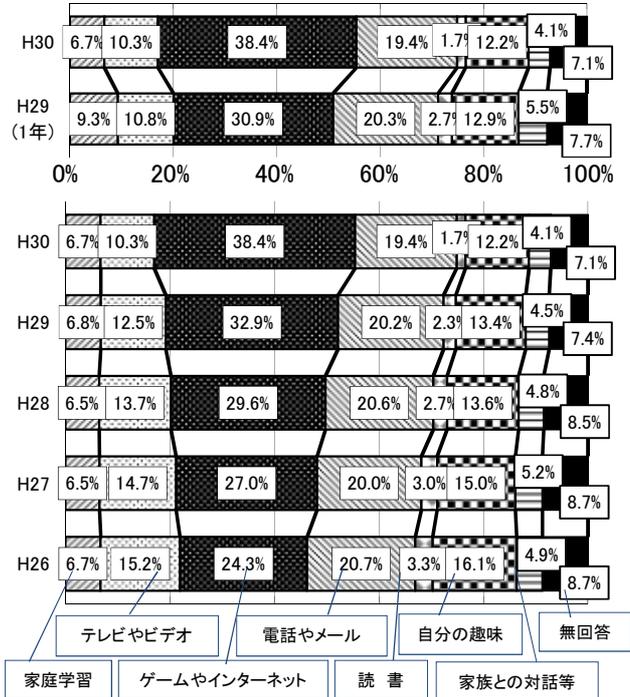
- 「部活動との両立」は1年時より減少。
- 「成績が伸びない」は1年時よりやや増加。
- この傾向については昨年と同様である。

図29 平日に最も時間をかけていること(1年生)



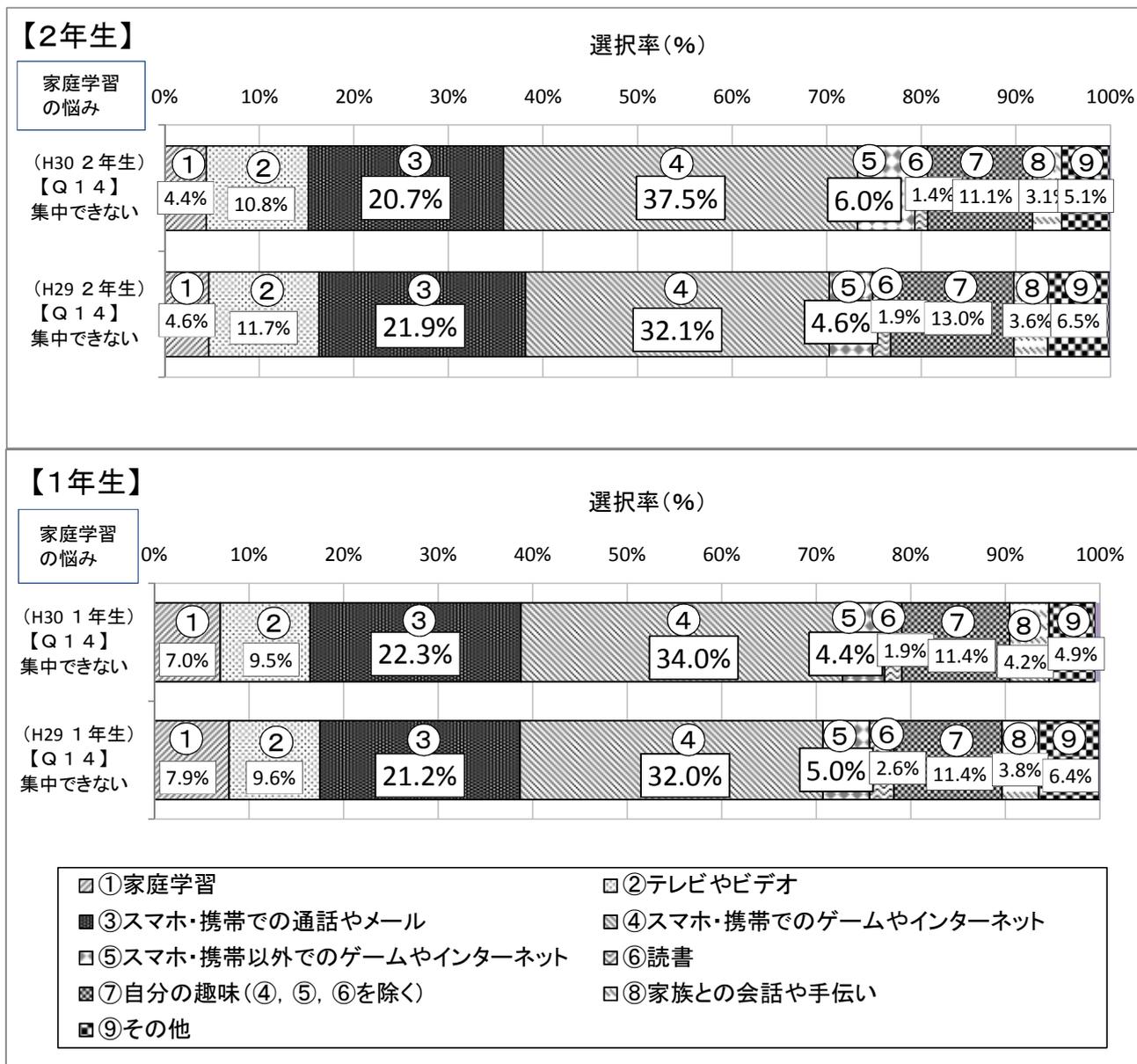
- 「ゲームやインターネット」が昨年度から4.7%増加。4年前から見ると、約14%の増加である。
- 「家庭学習」「テレビやビデオ」「読書」「家族との対話等」がそれぞれ減少傾向にある。個人的な時間の使い方や楽しみ方に変化が見られる。

図30 平日に最も時間をかけていること(2年生)



- 「家庭学習」の割合は昨年度からは横ばい、1年時よりは減少。
- 「ゲームやインターネット」が1年時から7.5%増加し、40%に迫っている。

図31 悩みが「集中できない」生徒の、平日の生活状況(【Q14】、【Q17】)

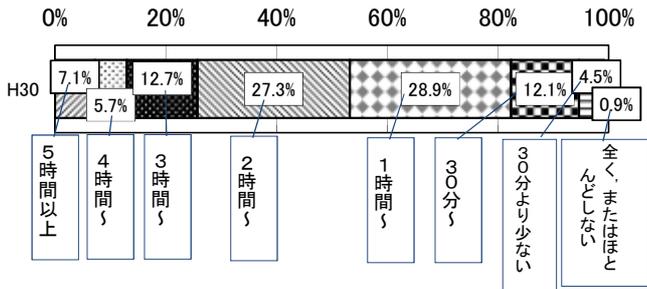


## ネット依存的な傾向が、家庭生活や学習活動に影響

- 1年生, 2年生ともに, 家庭学習をする上での悩みとして, 学習に「集中できない」と回答した生徒の割合は約3割で, 最も多い。
- そのうち, 平日に, 家で最も時間をかけていることが, スマートフォンや携帯電話でのゲームやインターネットと回答しており, 前年度よりも増加し, 1年生は34.0%, 2年生は37.5%となっている。
- このことについては, 前年度よりも大幅に増加している。【Q17】の「平日に最も時間をかけていること」の回答状況でも指摘しているが, 「ゲームやインターネット」に最も時間をかけている生徒の割合は4年前と比べると約14%増加していることから, ネット依存的な傾向が, 家庭生活や学習活動に影響を及ぼしていることがうかがわれる。今後, 家庭とも連携した対策が必要である。

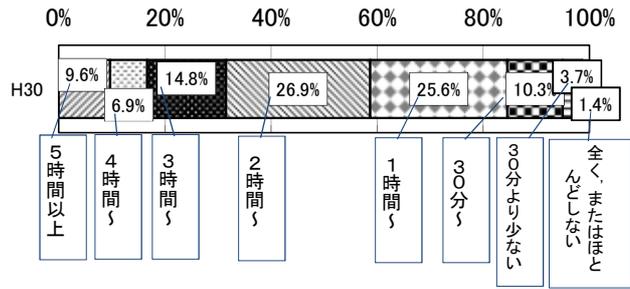
(9) 携帯電話等の使用時間と使用する場面(【Q18】、【Q30】)

図32 平日の使用時間(1年生)



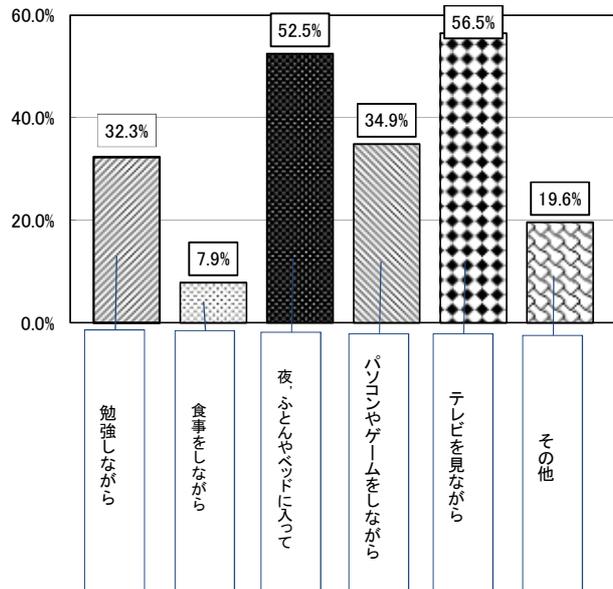
- 1日2時間以上スマートフォンや携帯電話を使用している割合は50%を超えている。
- 3時間以上使用している割合は25%超。

図33 平日の使用時間(2年生)



- 1日2時間以上スマートフォンや携帯電話を使用している割合は50%を超えている。
- 3時間以上使用している割合は約30%。

図34 使用する場面(1年生)



- 「勉強しながら」の割合が30%を超える。
- 「テレビを見ながら」が最も多く、「夜、ふとんやベッドに入ってから」とともに50%を超えており、学習習慣や生活習慣の確立及び十分な睡眠時間の確保への影響が懸念される。

図35 使用する場面(2年生)

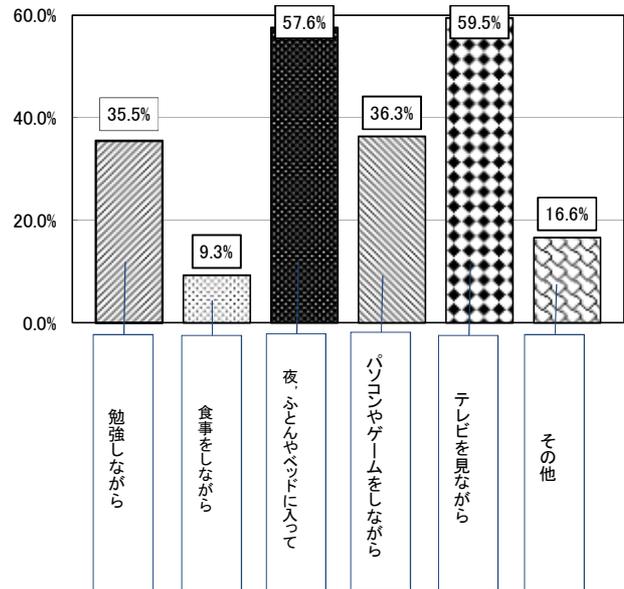


図36 使用時間と正答率

【Q18】 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか

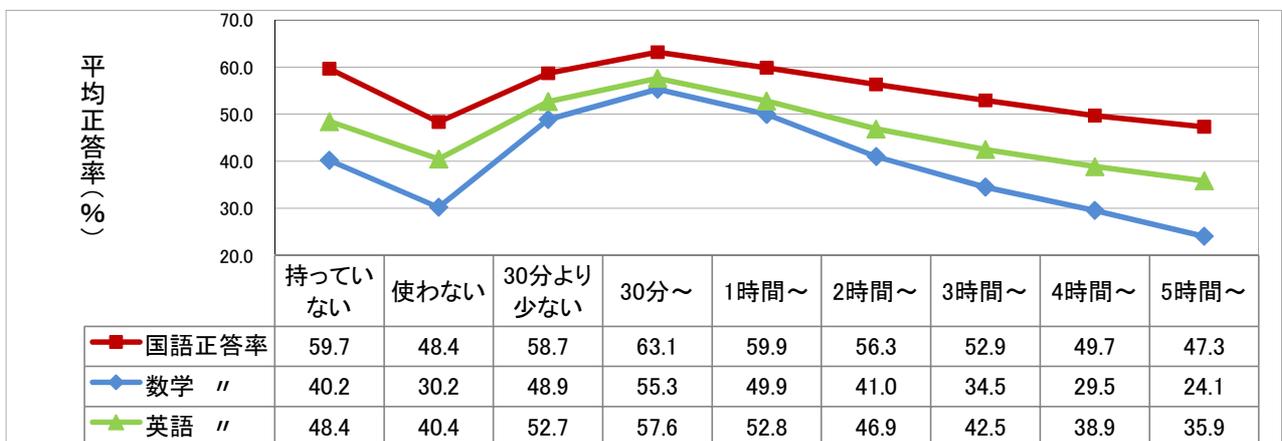
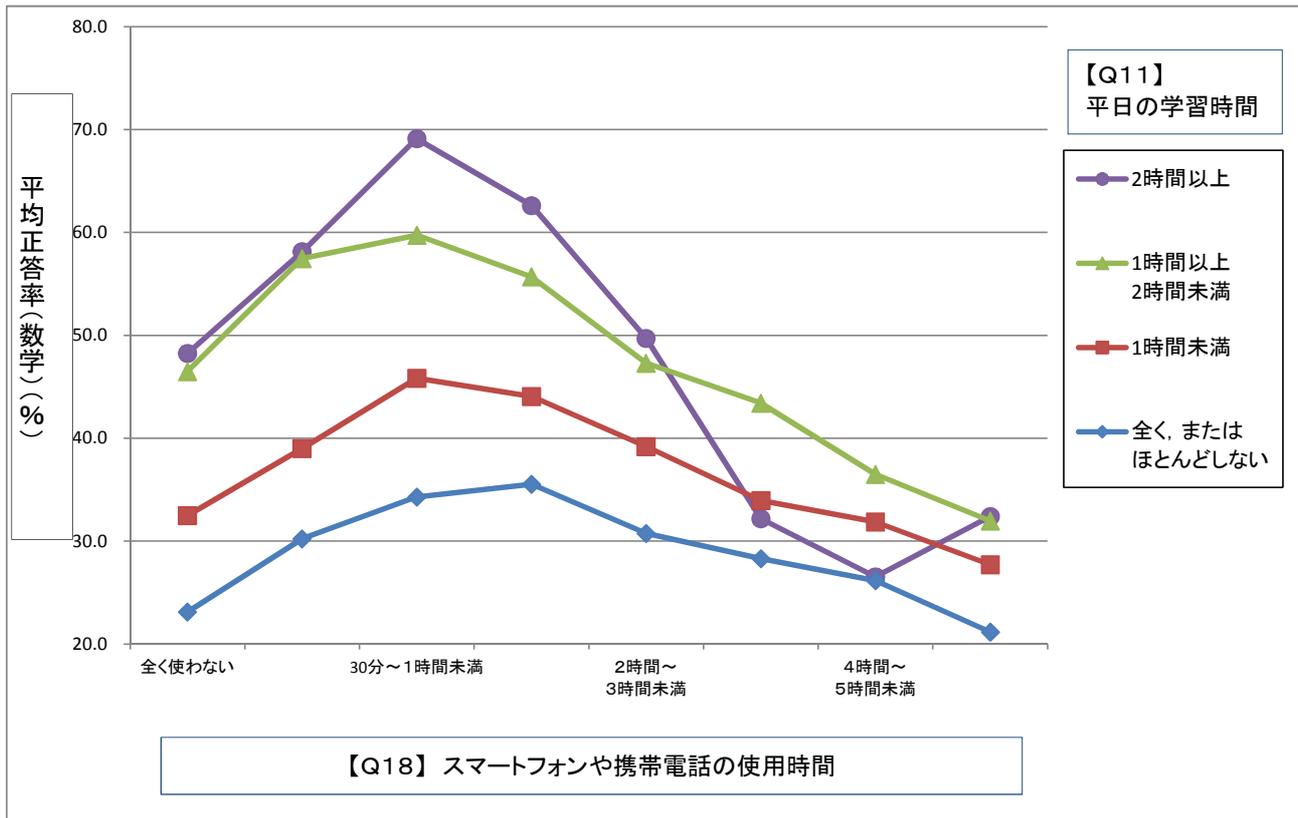


図37 学習時間とスマートフォン等使用時間, 正答率



## 「スマホは、勉強の効果を打ち消す!？」

○ 同じ学習時間の場合、スマートフォンや携帯電話の使用時間が長くなるほど正答率は下降しており、使用時間が学習効果に影響を与えていることがわかる。特に、2時間以上学習している生徒が、スマホ等の使用時間が2時間を越えた場合の正答率の低下が著しい。

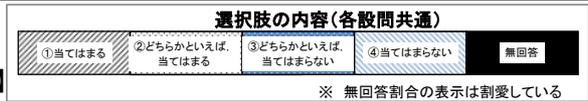
→ ○ また、「学習時間」によらず、スマートフォン等の使用時間が、1時間を超えると正答率が下降している。

※ 学習時間と正答率の間には相関がみられるが、学習時間を確保していても、勉強しながらスマートフォン等を使用していると学習に集中できず、学習した内容が定着しないことが予想される。学習に集中し、学習の効果を最大限に高めるために、スマートフォン等の使用について家庭と連携しながら指導をすることが必要である。

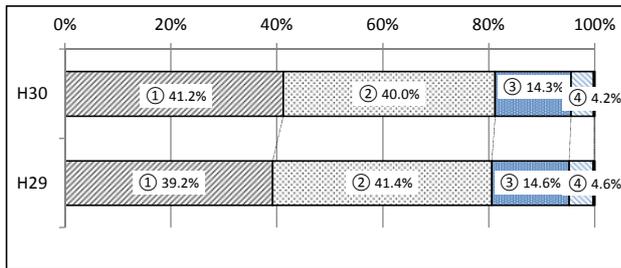
## 4 「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査

### I 震災後の心と体の安定について

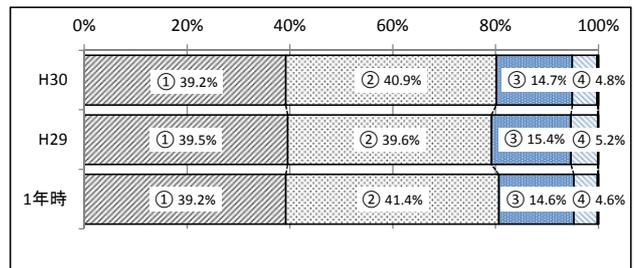
(1) 毎日同じくらいの時刻に寝ている(生活習慣について)【Q33】



①【1年生】



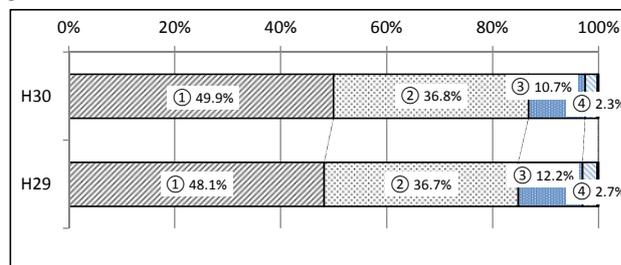
②【2年生】



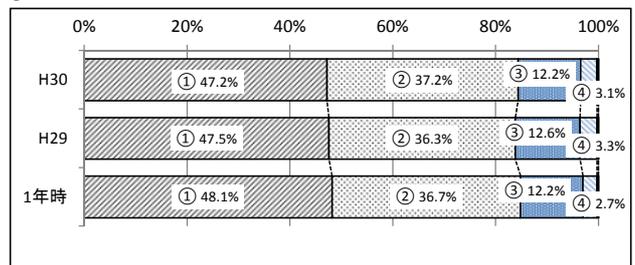
○毎日同じくらいの時刻に寝ていると回答した割合は約80%で、睡眠の様子からは生活習慣はほぼ安定。

(2) 体調はよい(体調管理について)【Q34】

①【1年生】



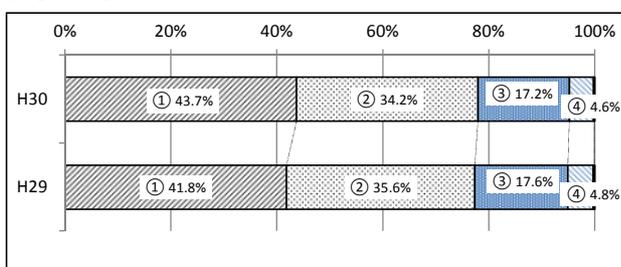
②【2年生】



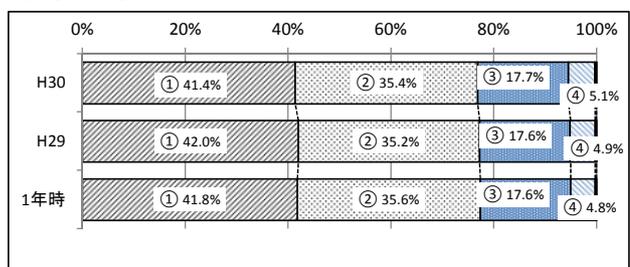
○体調管理は概ね良好。体調管理がうまくいっていない生徒は、やや減少している。

(3) 熟睡ができています(睡眠について)【Q35】

①【1年生】



②【2年生】

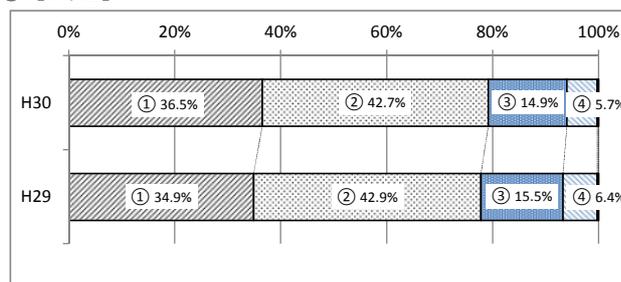


○熟睡ができていますと回答した割合は約80%。2年生では、1年時よりやや減少。

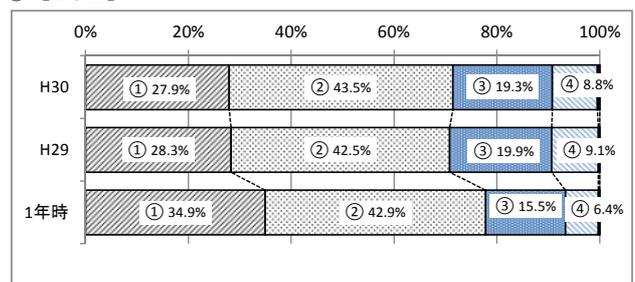
### II 震災後の学校生活について

(1) 学校生活に充実感や満足感を感じている(学校生活について)【Q36】

①【1年生】

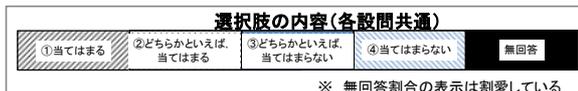


②【2年生】

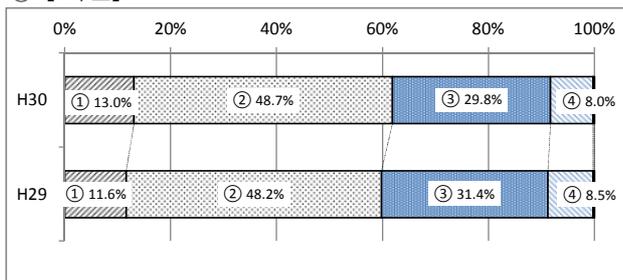


○充実感や満足感を感じていると回答した割合は1年生で増加、2年生では1年時より減少。

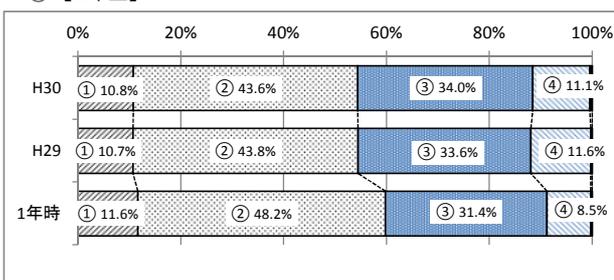
(2) 集中して勉強できている(勉強について)【Q43】



① 【1年生】



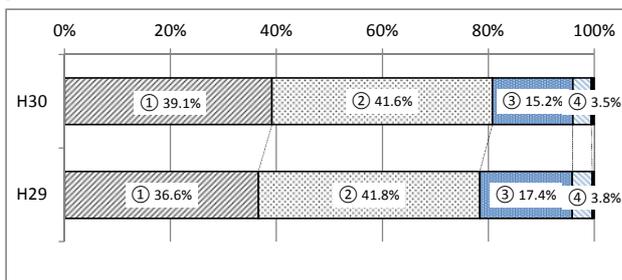
② 【2年生】



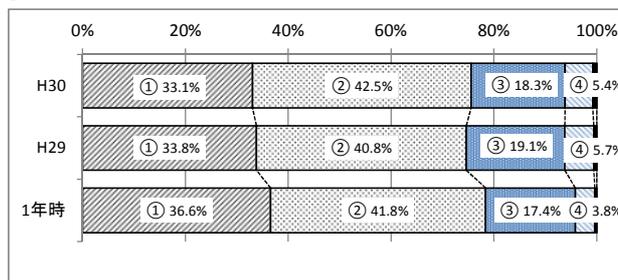
○集中して勉強できていると回答した割合は、1年生でやや増加、2年生では1年時より減少。

(3) クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる(はたす)(学校行事について)【Q58】

① 【1年生】



② 【2年生】

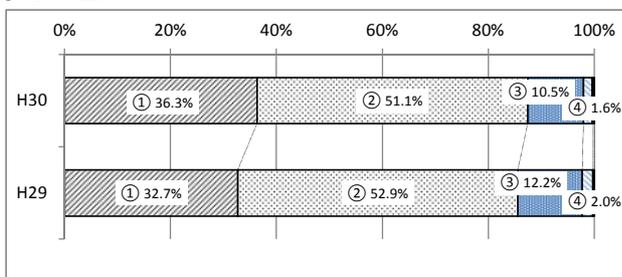


○1年生は80%、2年生は75%程度が積極的に取り組んでいると回答。「当てはまる」と回答した2年生の割合は1年時より減少。

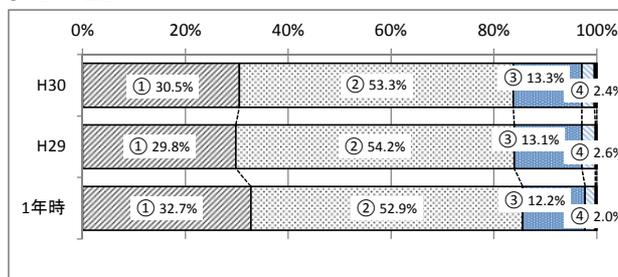
Ⅲ 「志教育」に係る意識の変化について1

(1) 人が困っている時は、進んで助けるようにしている(かかわる)(他者理解について)【Q38】

① 【1年生】



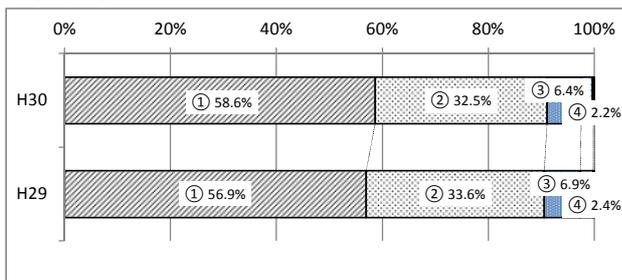
② 【2年生】



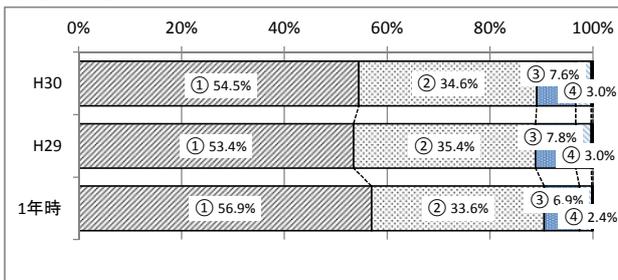
○人が困っている時は、進んで助けるようにしていると回答した割合は1年生は増加、2年生は1年時より減少。

(2) 人の役に立つ人間になりたいと思っている(もとめる)(志について)【Q47】

① 【1年生】

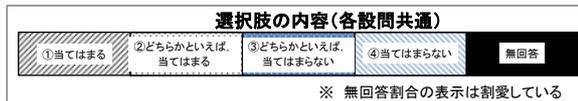


② 【2年生】



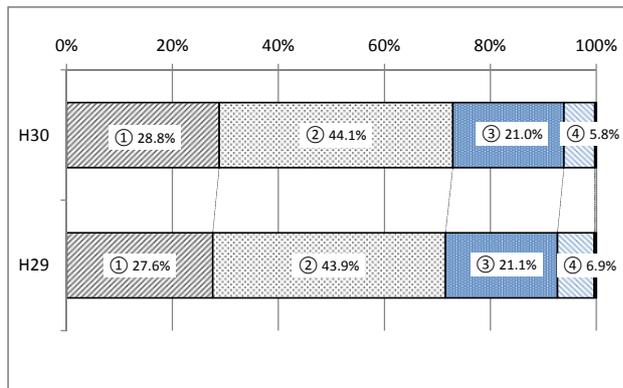
○人の役に立つ人間になりたいと回答した割合は90%程度。2年生では、1年時よりやや減少。

## IV 「志教育」に係る意識の変化について2

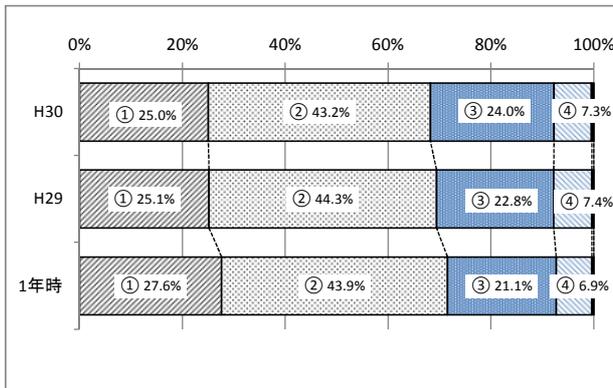


### (1) 自分の個性や適性が分かっている(もとめる)(自己理解について)【Q50】

#### ① 【1年生】



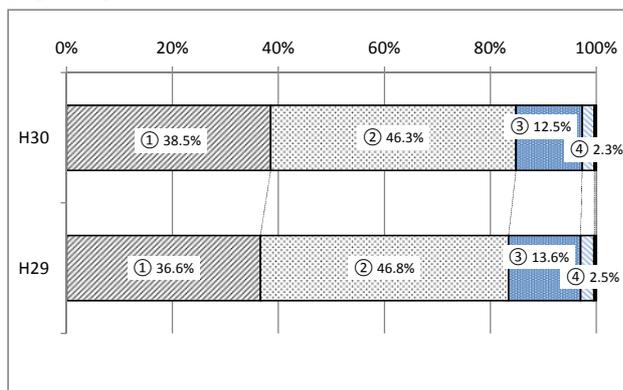
#### ② 【2年生】



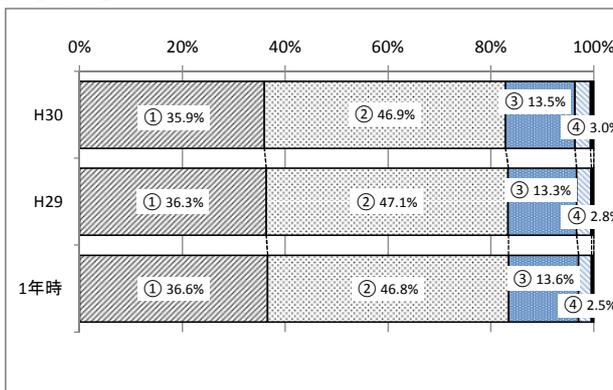
○自分の個性や適性が分かっていると回答した割合は70%程度。2年生で「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した割合がやや増加。

### (2) 働くことの意義を理解している(はたす・もとめる)(勤労観・職業観について)【Q55】

#### ① 【1年生】



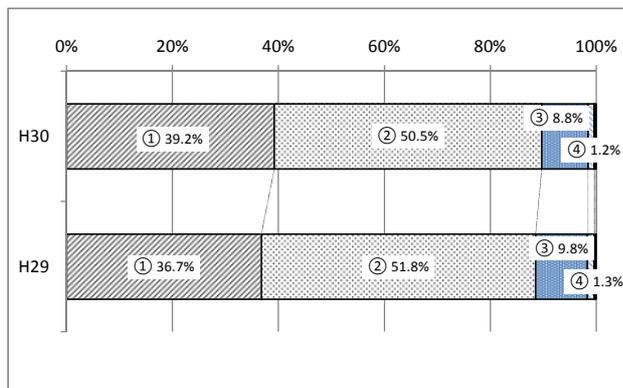
#### ② 【2年生】



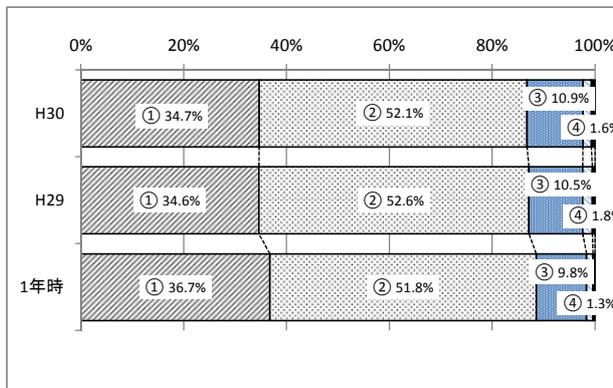
○理解していると回答した割合は80%超。2年生では前年よりやや減少したものの1年時と同程度。

### (3) 自分の役割に責任を持って行動している(はたす・もとめる)(有用感について)【Q57】

#### ① 【1年生】



#### ② 【2年生】



○約90%の割合の生徒が自分の役割に責任を持って行動していると回答。

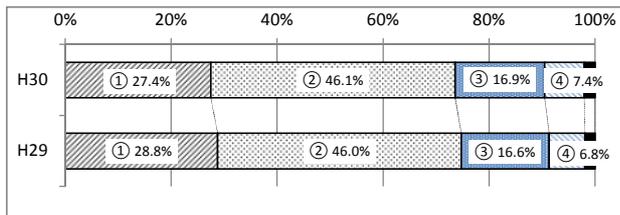
## V 高校入試について

選択肢の内容(各設問共通)				
①当てはまる	②どちらかといえば、当てはまる	③どちらかといえば、当てはまらない	④当てはまらない	無回答

※ 無回答割合の表示は割愛している

(1) 高校入試(学力検査)は、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っている(学力向上について)【Q44】

【1年生】



○高校入試(学力検査)は、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っていると回答した割合は前年同様の75%程度。

### 現行入試制度のねらい

我が県の入試制度は、入試を通じ、中学生が、高校生活や、その先の自らの将来について展望する契機とすることで、受験生の主体的な進路選択と目的意識の明確化を促し、ひいては、一人一人の学校生活の一層の充実につなげることをねらいとしている。

◎ 調査結果からは、各高校の進める特色づくりや、これを踏まえた出願基準の設定、学力検査の導入等の制度変更により、中学生の主体的な進路選択と目的意識の明確化、学習意欲の喚起等、入試制度のねらいに沿った効果が表れている。

## Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

生徒が安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と生徒、生徒同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくこと、そして、家庭とも連携しながら、学習習慣や生活習慣について点検し、改善を図っていくことが必要である。

### ○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

授業理解度は上昇傾向にあるが、授業が理解できないとする生徒も半分程度いる。発表や話し合い活動等に代表される「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を行う等、不断の授業改善を図りたい。また、学びなおし等、早期からのつまづき対策も引き続き必要である。

### ○家庭学習時間の確保

家庭で2時間以上学習している生徒の割合は、2割弱にとどまっている。宿題を課したり、小テストをしたりすることは、学習習慣の定着にもつながり有効である。また、主体的計画的な家庭学習となるように、課題の量・質を工夫する、具体的な進路目標を立てさせる等の取組が必要である。

### ○「志教育」の充実

社会人講師を招いての講演会やワークショップ等の啓発的な体験活動を教育計画に取り入れることは、社会や職業に対する認識を深め、自分が将来どのように社会に参画していくかを考えさせる上で有効である。また、その後の学習意欲や学習態度の改善にも効果が期待できる。

### ○自己教育力を高める取組

教科「情報」や関係機関と連携した講演会等を通じて、ネット社会の利便性に併存する危険性についての正しい理解を促すとともに、生徒が、身の回りにある様々な課題について、自ら考え、自ら学ぶ機会を設けるなど生徒の自己指導力・自己教育力を高める機会を設けていく。

### ○生活習慣の改善、家庭と学校との連携

食事や睡眠等の生活習慣の乱れや、携帯電話やスマートフォン、インターネット等への依存傾向が、学習や生活に支障を及ぼす等の影響が出ている。家庭でも、生活習慣やスマートフォン等の使用時間や使用方法等について話し合う機会を設けるなど、家庭と連携した対策を講じていく必要がある。

## 学 力 向 上

↑

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善>

<学習意欲の喚起>

### <各学校>

- 学力・学習状況等の把握
- 指導力・授業力向上研修
- 指導の手引き、事例集等の活用
- 「志教育」の推進
- 家庭、県教委や関係機関との連携

### <家庭>

- 生活習慣の改善
  - 状況の把握と情報共有
  - 親子での話し合い
  - 家庭学習時間の確保
- 学校、県教委との連携

### <県教育委員会>

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| ○学力・学習状況等調査  | ○クラフトマン21事業  | ○みやぎ産業教育フェア  |
| ○授業力向上支援     | ○高大連携事業      | ○高校生地域貢献推進事業 |
| ○基礎学力充実支援    | ○魅力ある高校づくり支援 | ○高校生マナーアップ運動 |
| ○進学重点校学力向上支援 | ○SSH, SGH等   | ○高校生フォーラムの開催 |
| ○みやぎ高校生異文化交流 | ○医師を志す高校生支援他 | ○ネット被害未然防止対策 |

